

<b>1-1 建物概要</b>			<b>1-2 外観</b>	
建物名称	永守重信市民会館整備事業		階数	地上3F、地下1F
建設地	京都府向日市		構造	RC造
用途地域	準防火地域		平均居住人員	725 人
地域区分	6地域		年間使用時間	1,800 時間/年(想定値)
建物用途	集会所		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月	予定	評価の実施日	2021年5月10日
敷地面積	6,927 m <sup>2</sup>		作成者	田原正寛
建築面積	1,529 m <sup>2</sup>		確認日	2021年5月10日
延床面積	3,095 m <sup>2</sup>		確認者	田原正寛



<b>2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)</b>		<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)</b>		<b>2-3 大項目の評価(レーダーチャート)</b>	
<p><b>BEE = 1.6</b> ★★★★★★</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>		<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 66%</p> <p>③上記+②以外の 66%</p> <p>④上記+ 66%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>		<p>Q2 サービス性能</p>	

<b>2-4 中項目の評価(パーチャート)</b>					
Q 環境品質 <span style="float: right;">Qのスコア = 3.2</span>					
<b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.4 		<b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.5 		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.7 	
LR 環境負荷低減性 <span style="float: right;">LRのスコア = 3.6</span>					
<b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.4 		<b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.8 		<b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.3 	

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
総合	その他	
<b>Q1 室内環境</b> 空気質環境について内部仕上は全てF☆☆☆☆又は告示対象外となる建築材料を採用する。建物内に新鮮空気を多く導入する為に、居室における換気量を30m <sup>3</sup> /h・人とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 基準より50%増の耐震性を有する。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 景観や地域性に配慮し、開放的スペースの確保と緑化計画を行っている。
<b>LR1 エネルギー</b> 外皮(外壁、屋根)の断熱性能を高めることで、主に空調にかかる消費エネルギー量を低減している。また、LED照明、高効率給湯器、CO <sub>2</sub> センサーによる換気制御等を採用することで、建物全体の消費エネルギーを削減している。自然エネルギーの活用としては、太陽光発電を採用	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 内装下地にLGSの使用により部材の再利用可能性向上を取り込んでいる。ライフサイクルにおけるCO <sub>2</sub> 排出量は参考値の66%まで低減している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 近隣への配慮を行った計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される